

令和元年 7月

各 位

八戸市東京事務所長

八戸レポートの送付について

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

「八戸レポート令和元年7月号」をお送りいたしますので、ご高覧くださいますようお願いいたします。

およそ300年の歴史と伝統を誇り、2016年にユネスコ無形文化遺産「山・鉾・屋台行事」に登録された国の重要無形民俗文化財「八戸三社大祭」が7月31日（水）～8月4日（日）の日程で開催されます。

一番の見どころは、おがみ神社・長者山新羅神社・神明宮の三神社の神輿行列と、神話や歌舞伎等を題材に各山車組が制作した27台の山車の合同運行です。

古式ゆかしい神社行列と、雅やかなお囃子とともに現れる華麗な山車が、八戸の短い夏を熱く、美しく彩ります。

みなさま、八戸のまちが熱気に包まれる「八戸三社大祭」にぜひお越しください。

◆「八戸三社大祭」の詳細はこちらをご覧ください（VISITはちのへホームページ）
<https://visithachinohe.com/stories/hachinohe-sannshataisai/>

◎皆様へのお願い

職業、役職、住所などに変更がある場合は、八戸市東京事務所までお知らせくださいますようお願い申し上げます。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

電話 (03) 3261-8973 / FAX (03) 3239-6723

E-mail: tokyo@city.hachinohe.aomori.jp

八戸 7月号 レポート

令和元年6月の八戸市内での出来事や八戸市に関連する情報をお届けします。

【行政】

記事	概要
(1)	八戸駅西 土地区画整理事業の「三条未来橋」が供用開始
(2)	YSアリーナのこけら落とし公演 出演者第2弾発表
(3)	八戸市新美術館が着工 2021年夏ごろオープン予定
(4)	八戸市立図書館 障がい者への郵送貸し出しを開始
(5)	八戸市公会堂改修 入札不調 着工先送りへ
(6)	八戸市市制施行90周年記念式典開催
(7)	「八戸市みなと体験学習館」7月6日オープン

【産業】

記事	概要
(8)	～ビールを飲んで花火を打ち上げよう～ 対象飲食店で代金の一部を寄付
(9)	八戸酒造の「陸奥八仙」 フランスの日本酒品評会で高評価
(10)	八戸圏域版DMO「はちのへローカルマーケット」をスタート
(11)	八食ファーマーズ倶楽部 八食サンド3種類を開発
(12)	「もち麦入りサンドイッチ」「減塩焼きおにぎり」 県食生活改善推進員らが開発
(13)	はちのへワイナリー 南郷に醸造所完成

【地域】

記事	概要
(14)	種差海岸に迷子のトド?出現
(15)	南郷大森地区に紫の道“アヤメロード” 15年かけてシンボルに
(16)	糖尿病による死亡率 青森県が全国ワースト
(17)	南郷地区 サクランボ観光農園オープン
(18)	八戸机研賛会 全国52カ所の矯正施設慰問で法務大臣表彰
(19)	陸奥湊駅前再開発 民間事業主体設立へ

【文化・スポーツ】

記事	概要
(20)	中島美華さん 新作CDをリリース

【行政】

記事	概要
(1)	<p>八戸駅西 土地区画整理事業の「三条未来橋」が供用開始</p> <p>八戸駅前周辺と尻内町矢沢地区をつなぐ「三条未来橋」が完成し、6月11日に供用が始まった。三条未来橋は、尻内町の区画整理事業区域内に設置される二つ目の橋で、浅水川に架かり、長さ24.5メートル、幅約19メートルで歩道も整備。橋の名前は三条小の児童が考えた。同駅-矢沢間の交通アクセスが向上し、整備中の「フラットアリーナ」の利用者の通行が見込まれるほか、八戸西高や三条中の生徒らの通学路としても活用が期待される。</p>
(2)	<p>YSアリーナのこけら落とし公演 出演者第2弾発表</p> <p>八戸市立屋内スケート場「YSアリーナ」のこけら落とし公演として、8月24日に開催される音楽フェスティバル「WORLD HAPPINESS with HACHINOHE(ワールドハピネスウィズハチノヘ)」の第2弾出演者が発表された。歌手のきゃりーぱみゅぱみゅさんと、ミュージシャン小山田圭吾さんのソロユニット「コーネリアス」の2組。今後も随時出演者を発表する予定で、チケットは現在、一般販売を先着受け付け中。アリーナ席は9千円、スタンド席は8千円で、共に税別、全席指定。</p>
(3)	<p>八戸市新美術館が着工 2021年夏ごろオープン予定</p> <p>2021年夏ごろオープン予定の八戸市新美術館の工事安全祈願祭が6月3日、建設予定地の番町で行われた。新美術館は地上3階建てで、延べ床面積は4881平方メートル。建物は20年9月ごろに完成予定で、建材から発生する物質が収蔵品に影響しないか調べる「枯らし」期間に半年から1年程度かかる見通し。美術館に併設する広場は、20年度中をめどに整備に着手する。市は市民らの利用を促すため、今後、開館前のプレ事業やシンポジウムなどを開催していく方針。小林眞市長は「市民が主体になる美術館。積極的に施設を利用してもらうことで、美術に興味なかった人にも関心が広がってほしい」と強調した。</p>
(4)	<p>八戸市立図書館 障がい者への郵送貸し出しを開始</p> <p>八戸市立図書館は本年度、重度の障がいがあり来館が困難な市民に対し、無料の郵送貸し出しサービスを開始した。借りたい本を電話やメール、ファクスで申し込むと、2、3日後に手元に本が届き、読み終わった後は郵便局に集荷を依頼するかポストに投函することで返却できる。公共の図書館が障がい者への郵送や宅配での貸し出しサービスを行う事例は全国的にも増えていることから導入を決めた。</p>
(5)	<p>八戸市公会堂改修 入札不調 着工先送りへ</p> <p>八戸市公会堂と市公民館の耐震改修工事で、工事の入札が不調となったため、八戸市は7月を予定していた着工時期を8月に先送りすると明らかにした。応札者がなかったことを踏まえ、市は設計内容や入札参加条件を一部変更した上で、再入札を行う方針を決定。着工の延期に伴い、公会堂は7月中も開館することとし、8月以降の休館期間については、落札業者と工程などを協議した上で決める。入札が不調となった要因について、市は東京五輪関連工事の影響などで、建設業界が人手不足に陥り、技術者を確保するのが難しくなっていることが背景にあるとみている。</p>

(6)	<p>八戸市市制施行90周年記念式典開催</p> <p>八戸市は6月27日、市制施行90周年を祝う記念式典を市公会堂で開いた。おがみ神社法霊神楽保存会による、青森県無形民俗文化財・法霊神楽で始まった記念式典。後半のアトラクションでは、バトントワリングや合唱が披露され、約1100人の出席者を魅了した。同日夜には記念事業で陸上自衛隊東北方面音楽隊による記念コンサートもあり、節目に花を添えた。挨拶で小林眞市長が「市が活力を持ち続け、今後も飛躍・発展していくために心新たに全力で取り組む」と市勢の前進に向けた決意を示した。</p>
(7)	<p>「八戸市みなと体験学習館」 7月6日オープン</p> <p>八戸市が館鼻公園に隣接する旧八戸測候所を活用して整備を進めてきた「八戸市みなと体験学習館」が完成し、7月6日にオープンした。1階は防災学習コーナーで、震災の津波発生から復興までを映像で表現した「震災タイムトンネル」を設置。スクリーンとモニターでトンネルのような空間を演出する。2階は湊地域の歴史・文化学習コーナーで、八戸の歴史や自然、祭りなどを紹介している。「みなとカフェ」では防災食を販売、軽食メニューとしても提供するなどし、“みなとまち八戸”の魅力を体験できる新拠点に生まれ変わった。また、災害時には、防災機能を備えた一時避難所としての役割も担う。</p>

【産業】

記事	概要
(8)	<p>～ビールを飲んで花火を打ち上げよう～ 対象飲食店で代金の一部を寄付</p> <p>8月18日に館鼻岸壁で開かれる第39回八戸花火大会の大会委員会は、6月24日から8月18日まで対象飲食店でビールを注文すると、代金の一部が花火大会に寄付される企画「はちのへHaNa（はな）ビール」の実施を決めた。HaNaビールを注文すると、専用カップでビールやハイボールなどが提供され、代金の一部が同大会に寄付される。カップにはくじが付いており、「当たり」が出れば観覧席チケットもプレゼントされる。市中心街の飲食店を中心に数十店舗が参加する見通しで、市民参加型の花火大会を目指して夏の風物詩を盛り上げる。</p>
(9)	<p>八戸酒造の「陸奥八仙」 フランスの日本酒品評会で高評価</p> <p>フランスで5月に開催された日本酒の品評会「Kura Master」で、八戸酒造（八戸市）の「陸奥八仙 赤ラベル」と「陸奥八仙 Natural Sparkling Premium」が、出品720銘柄の中から上位14品が選ばれる「TOP14」に輝いた。品評会は、フランス市場で日本酒をアピールする場として2017年から行われており、フランス人のソムリエやレストラン関係者らが審査員を務める。赤ラベルは、フレッシュでフルーティーな飲み口が特長。ナチュラルスパークリングは、優しい発泡でコメの自然な甘味が楽しめる。</p>

(10)	<p>八戸圏域版DMO「はちのへローカルマーケット」をスタート</p> <p>八戸圏域版DMO（観光地域づくり推進法人）「VISIT（ビジット）はちのへ」は、地場製品の販路拡大を目指す企画「はちのへローカルマーケット」をスタートした。八戸駅に隣接するユートリーに特設ブースを設置し、毎月テーマを選んで八戸圏域の季節の商品を販売するなどして、観光・ビジネス客への情報発信を強化する。6月は「うにまつり」とし、15、16の両日に階上町の生ウニやウニ加工品などを販売した。この他、1カ月程度の入れ替えによる「全国特産品フェア」も実施。6月15日から愛媛県今治市のフェアを開催し、今治タオルなどの販売もする。</p>
(11)	<p>八食ファーマーズ倶楽部 八食サンド3種類を開発</p> <p>八食センターと青森県南地方の農業生産者でつくる「八食ファーマーズ倶楽部」は、新グルメ「八食サンド」を開発した。会員が育てた新鮮な野菜などをパンに挟んだオリジナル商品で、今回は3種類が完成。サバの唐揚げときんぴらごぼうの「八戸鯖のきんぴらサンド」、鶏の唐揚げと8種の夏野菜の「八食唐揚げ夏野菜サンド」、卵焼きとポテトサラダ風にしたナガイモの「八食厚焼きたまごのハムポテトサンド」の3種類。食の拠点である八食の特色を生かし、継続的な取り組みにして地域農業の活力創出や子どもの食育推進を目指す。</p>
(12)	<p>「もち麦入りサンドイッチ」「減塩焼きおにぎり」 県食生活改善推進員らが開発</p> <p>食生活改善の啓発に取り組む弘前大COI（センター・オブ・イノベーション）プロジェクトと青森県、県食生活改善推進員連絡協議会が新商品を開発し、青森県内262店舗のコンビニエンスストアのローソンで販売している。食物繊維たっぷりの「チーズで食べるもち麦入りビーンズサラダサンド」（税込み276円）と減塩に配慮した「かねさ減塩味噌仕立ての焼きおにぎり」（同110円）の2種類。同社の担当者らが6月24日に県庁を訪ね、新商品をPR。試食した三村知事は「県民の健康を考えてくれたことに感謝。おいしく食べて自然に健康になれるのは素晴らしい」と太鼓判を押した。</p>
(13)	<p>はちのへワイナリー 南郷に醸造所完成</p> <p>「はちのへワイナリー」が八戸市南郷中野に建設していたワイナリーが完成し、6月26日に完工式典が行われた。これまでは岩手県紫波町のワイナリーに委託醸造していたが、ブドウ生産から製造、販売まで一貫して行うことが可能になった。施設は鉄骨造り2階建てで、延べ床面積約310平方メートル。醸造タンク13本や二次発酵設備、蒸留器などを備える。昨秋に着工し、総工費約1億6千万円。最大で年間約4万～5万本を製造できる設備を備えており、早ければ年内にも同ワイナリーで製造したワインを出荷する見込み。</p>

【地域】

記事	概要
(14)	<p>種差海岸に迷子のトド？出現</p> <p>6月2日午前、葦毛崎展望台から東に約100メートルの小さな岩の上にトドとみられる海獣が姿を現し、展望台を訪れた観光客らを驚かせた。青森県営浅虫水族館によると、形状などから子どものトドとみられ、県内での目撃は珍しいという。主食の魚やイカなどを追って八戸沖にやって来たともみられるが、どこか寂しげな様子で辺りを見渡しており、群れからはぐれた可能性も。昼すぎには海の中へ入っていったが、突然の“珍客”の出現に展望台の来場者らは興味深げに、スマートフォンで撮影していた。</p>
(15)	<p>南郷大森地区に紫の道“アヤメロード” 15年かけてシンボルに</p> <p>八戸市の最南端に、知る人ぞ知る花の名所“アヤメロード”がある。南郷大森地区の交差点周辺で5、6月に全長約1キロにわたってアヤメが咲き誇る。15年前から地元農家の有志が自主的に植栽と管理を続けており、この地区のシンボルになりつつある。毎年5月下旬から開花が進み、森林や水田、葉タバコの緑一色に染まった風景に、鮮やかな紫のアクセントを付ける。県境を行き交うドライバーの中には、車を止めて撮影する人もいるという。中心的役割を担ってきた西舘貴美子さんは「大森を良くするための活動が、少しずつ地域に認められてきた」と語った。</p>
(16)	<p>糖尿病による死亡率 青森県が全国ワースト</p> <p>厚生労働省が発表した2018年の人口動態統計によると、青森県の人口10万人当たりの死亡数を示す死亡率で、糖尿病が20.2（前年比1.2ポイント増）で全国ワーストとなった。糖尿病の人数自体は254人（12人増）と少ないが、生活習慣の見直しで予防や改善が期待できることから、県は死亡率改善に向け、会員制交流サイト（SNS）を通じて病気や予防についての情報発信に努めているほか、県内のスーパーマーケットなどと連携し、減塩など食生活改善の普及啓発活動も行っている。</p>
(17)	<p>南郷地区 サクランボ観光農園オープン</p> <p>南郷地区のサクランボ観光農園が6月21日、オープンした。初日のセレモニーには市内の保育園児約30人が招待され、園児たちは赤く色付いたサクランボの摘み取りを体験した。南郷地区でサクランボ狩りができる観光農園は一二三、森、小林、村上、成田の観光農園5カ所。入園料はいずれも5カ所共通で、1時間食べ放題が中学生以上1人800円、小学生500円、幼児300円で家族連れの場合、幼児は無料になる。関係者によると、今年は開花時期の4～5月に天候に恵まれたため生育状況が良く、大きさと甘味が十分だという。</p>
(18)	<p>八戸机研賛会 全国52カ所の矯正施設慰問で法務大臣表彰</p> <p>全国の刑務所などをボランティアで長年慰問している功績をたたえ、法務省は6月20日、八戸机研賛会（工藤威美子会長）に感謝状を贈呈した。同会の女性部約40人は2001年から、南部町出身の演歌歌手、琴けい子さんと共に手弁当で慰問を始め、年間で多いときには5回程度、各地の矯正施設を回り、今年2月の東京拘置所で52カ所目を数えた。山下貴司法相から感謝状を受けた工藤会長は「できることなら全施設を回りたい」と意欲を示した。</p>

(19)	<p>陸奥湊駅前再開発 民間事業主体設立へ</p> <p>八戸市湊町の陸奥湊駅周辺地区の活性化を目的に、地区住民らが6月25日、「陸奥湊駅通り地区まちづくり協議会」を設立した。陸奥湊駅前の再開発を巡っては、市が2006年度に推進計画を策定したものの、巨額の整備費が見込まれたため、実現に至らなかった経緯がある。同日に開かれた設立総会では、にぎわいのある商店街形成に向け、再開発事業実施主体の立ち上げや、まちづくり計画の策定に向けた取り組みなど本年度の事業計画を決めた。</p>
------	---

【文化・スポーツ】

記事	概要
(20)	<p>中島美華さん 新作CDをリリース</p> <p>青森県内で歌手やリポーターとして活動している八戸市の中島美華さんが、6月6日にミニアルバム「ことのはね2」をリリースした。4曲を収録し、その中で中島さんが作詞、作曲した「花」は、昨年ベトナムで、ベトナム戦争にまつわる博物館を訪れた際、館内で見た写真から着想を得た。「聞いてくれた人が優しく温かい気持ちになる音楽を目指した」と中島さんは語る。また「多くの人にとって身近な所まで行って、歌を届けたい」との思いから、劇場ではない場所で公演を行っており、八戸市の更上閣や平川市の盛美園などでコンサートを開催した。</p>